

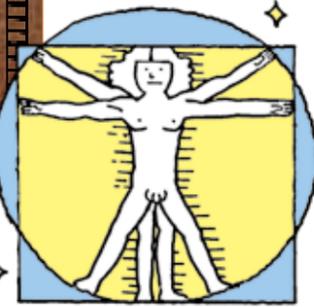


モナ・リザと レオナルド・ダ・ヴィンチ 名画のひみつ

監修 = 小林明子 東京都美術館学芸員



モナ・リザとレオナルド・ダ・ヴィンチ
名画のひみつ
もくじ



ダ・ヴィンチを知るための5つのキーワード 4-5

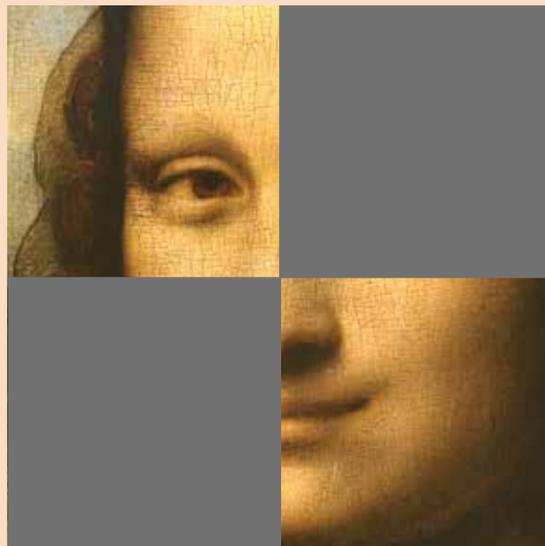
- 1 ルネサンス 2 手稿 3 弟子 4 パトロン 5 遠近法

第1章

なぜ? どうして?
モナ・リザのひみつ 6

モナ・リザ
の
ひみつ

- ① この人はだれ? 8
- ② なぜ神秘的に見える? 8
- ③ 不思議すぎる背景 10
- ④ この絵は完成していない? 12
- ⑤ この絵は切り取られている? 13
- ⑥ なぜ最後まで持ち歩いていた? 14
- ⑦ 手稿に記さなかったのはなぜ? 15
- ⑧ なぜ輪郭が見えないの? 16
- ⑨ なぜ人物のヒントがないの? 17



そうだったのか!
モナ・リザあれこれ 18-20

- もう1枚の『モナ・リザ』? ● 背景の橋が今もある!
- 盗難にあった『モナ・リザ』
- ほほえみが日本にやってきた!
- 貧乏が名画を救った?
- あのピカソが逮捕?
- 夏目漱石の小説では…

リスペクトされた
『モナ・リザ』 21

第2章

ダ・ヴィンチの名画と
歩んだ道 22

- ヴィンチ村のレオナルド 22
フィレンツェの修行時代 24
新天地ミラノ時代 30



『最後の晩餐』をくわしく知ろう

観音開き 34



- 『最後の晩餐』を読みとく 40
さまざまな弟子たちの反応 42
放浪の時代、そしてフランスへ 44

第3章

さまざまな顔を持つ
ダ・ヴィンチ 48

万能の
人

- ① 建築家ダ・ヴィンチ 50
- ② 科学者ダ・ヴィンチ 52
- ③ 発明家ダ・ヴィンチ 54
- ④ 解剖学者ダ・ヴィンチ 56
- ⑤ 地図製作者ダ・ヴィンチ 57



もっと知りたい! ダ・ヴィンチ ミニ知識 58

- ダ・ヴィンチはイケメンだった!?
- なぜ鏡文字に?
- ミュージシャンとしても活躍!
- 母のお腹をけたディカプリオ
- 童話も書いていた!
- ダ・ヴィンチの夢は現代にも

ダ・ヴィンチの生涯と作品 60

さくいん 62



ダ・ヴィンチを知るための

5つのキーワード

1

ルネサンス

古代ギリシアや古代ローマで栄えた文化を復興しようとする運動のことで、14世紀のイタリアで始まり、その後ヨーロッパにひろがりました。

中世の時代には、キリスト教にまつわる人物やできごとが、決まった表現で描かれることがほとんどでした。人物の表情やポーズもかきこまれた、近よりがたいものでした。ところがルネサンス時代になると、古代美術があらためてお手本とされ、現実の世界がありのままに表現されるようになりました。

イタリアでは、レオナルド・ダ・ヴィンチやラファエロ、ミケランジェロらが、フィレンツェのメディチ家などのパトロン（右ページ）の支援を受けてルネサンスの芸術を开花させました。



ミケランジェロ（左）と代表作の『ダヴィデ像』（上）（フィレンツェ、アカデミア美術館蔵）。提供／アフロ

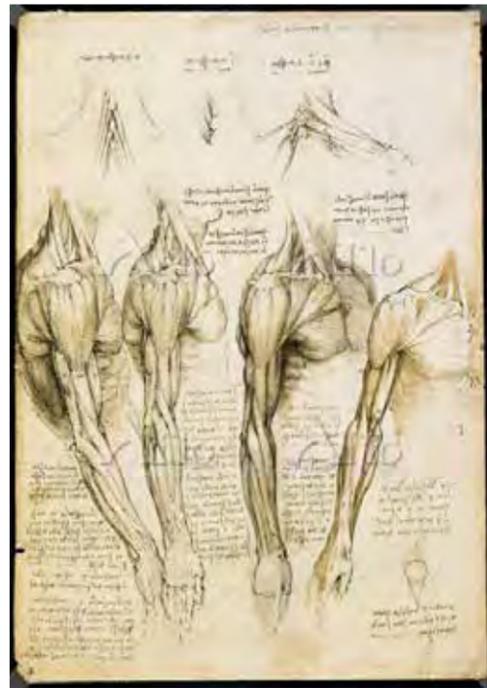
2

手稿

ダ・ヴィンチが、およそ40年間にわたって書きつづった数多くのノートのことです。全部で2万ページにもなるといわれ、現在残っているのはおよそ5000ページといわれています。ミラノの図書館にある「アトランティコ手稿」やイギリス・ウィンザー城に収められている「ウィンザー手稿」、フランスの「パリ手稿」、ビル・ゲイツが所有する「レスター手稿」などが有名です。

手稿の内容は、絵や彫刻などの下絵となるデッサンはもちろんのこと、人間の筋肉や内臓、顔の表情、動物や植物の観察記録、機械や武器などのアイデアのメモ書きなど、いろいろな分野におよびます。中には日々の買い物メモ、弟子のサライがお金を盗んだことまで書かれています。

ダ・ヴィンチは完成させた作品が少ないため、絵画などを研究する上でもこの手稿がとても重要になります。しかし、ダ・ヴィンチは左利きで、文字を右から左へと鏡文字（→58ページ）で書いているので簡単には読むことができません。弟子たちは文字を、鏡に写して読んでいたといわれています。



『肩および腕の筋肉の研究』レオナルド・ダ・ヴィンチ 1510年ごろ ウィンザー城、王室図書館蔵。提供／アフロ

3

弟子

『老人と青年の横顔』レオナルド・ダ・ヴィンチ 1495年ごろ 右は気にかけた弟子のひとり、サライ。提供／アフロ



ルネサンス期のフィレンツェでは、多くの芸術家工房が生まれました。師匠（親方）と弟子が工房で生活をともにしながら、多くの仕事をこなしました。弟子は模写をすることで師匠の様式を学び、ときには師匠のスケッチをもとに絵を仕上げました。反対に、弟子のスケッチに師匠が手を入れて完成させることもありました。このため、師匠の作品か、弟子が師匠をまねて描いたものか、判別がむずかしいものも少なくありません。

ダ・ヴィンチはフィレンツェでも大工房として有名だったヴェロッキオの工房に入り、修行をつめました。彼自身もまた、小さいながらも自分の工房を構え、弟子をかかえていました。そのなかに、サライとメルツィという弟子がいました。二人とも美男子で、ダ・ヴィンチに深く愛されたと伝えられます。



ダ・ヴィンチの最後のパトロンになった、フランス国王フランソワ1世。

4

パトロン

芸術家を経済的に支援する個人や団体のことで、スポンサーともいいます。ルネサンス期のイタリアでは、メディチ家のように裕福な一族がパトロンとなり、教会や宮殿などに飾る絵や彫刻をお気に入りの芸術家につくらせました。

ダ・ヴィンチも、ミラノのルドヴィコ・スフォルツァなどのパトロンに支えられて活動しました。作品に何をどのように描くかはパトロンが決めるのがあたり前でしたが、ダ・ヴィンチはパトロンとの意見が合わないこともたびたびあったようです。

このため、未完成に終わってしまった作品や、『岩窟の聖母』（→32ページ）のように、結果として同じような絵を2枚描くこともありました。

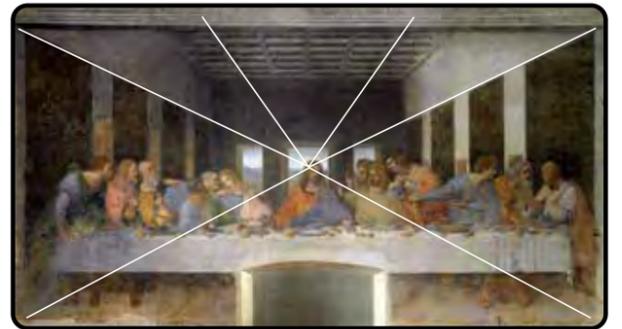
5

遠近法

遠近法とは、目の前にある3次元の空間を、絵という2次元の世界にあらわすための方法です。絵のなかに1つの点を設定し、建物や道をあらわす線がすべてその点に向かって集まるように描くことで、絵のなかに遠近感をつくりだすというもので、ルネサンス時代にさかんに研究されました。

ダ・ヴィンチは『最後の晩餐』にもこの手法をたくみに使いました。壁や天井の線がキリストに向かって集まるように

『最後の晩餐』では、建物をあらわす線がすべてキリストの右のこめかみのあたりに向かって集まるように描かれている。提供／アフロ



描かれ、観る人の視線は自然にキリストへとつながります。またダ・ヴィンチは、目に見える景色は遠くにいくにしたがってうすく、青みがかって見えることを発見し、これを絵画の中ではじめて表現しました。これを「空気遠近法」といい、『モナ・リザ』の背景などにも効果的に使われています。

第1章

なぜ? どうして? モナ・リザのひみつ

ダ・ヴィンチがおよそ15年という長い間、手を入れ続けていたという『モナ・リザ』。



世界でもっとも有名な絵であるとともに、多くのなぞを秘めた絵でもあります。ほほえみの後ろに、どんな秘密がかくされているのでしょうか。

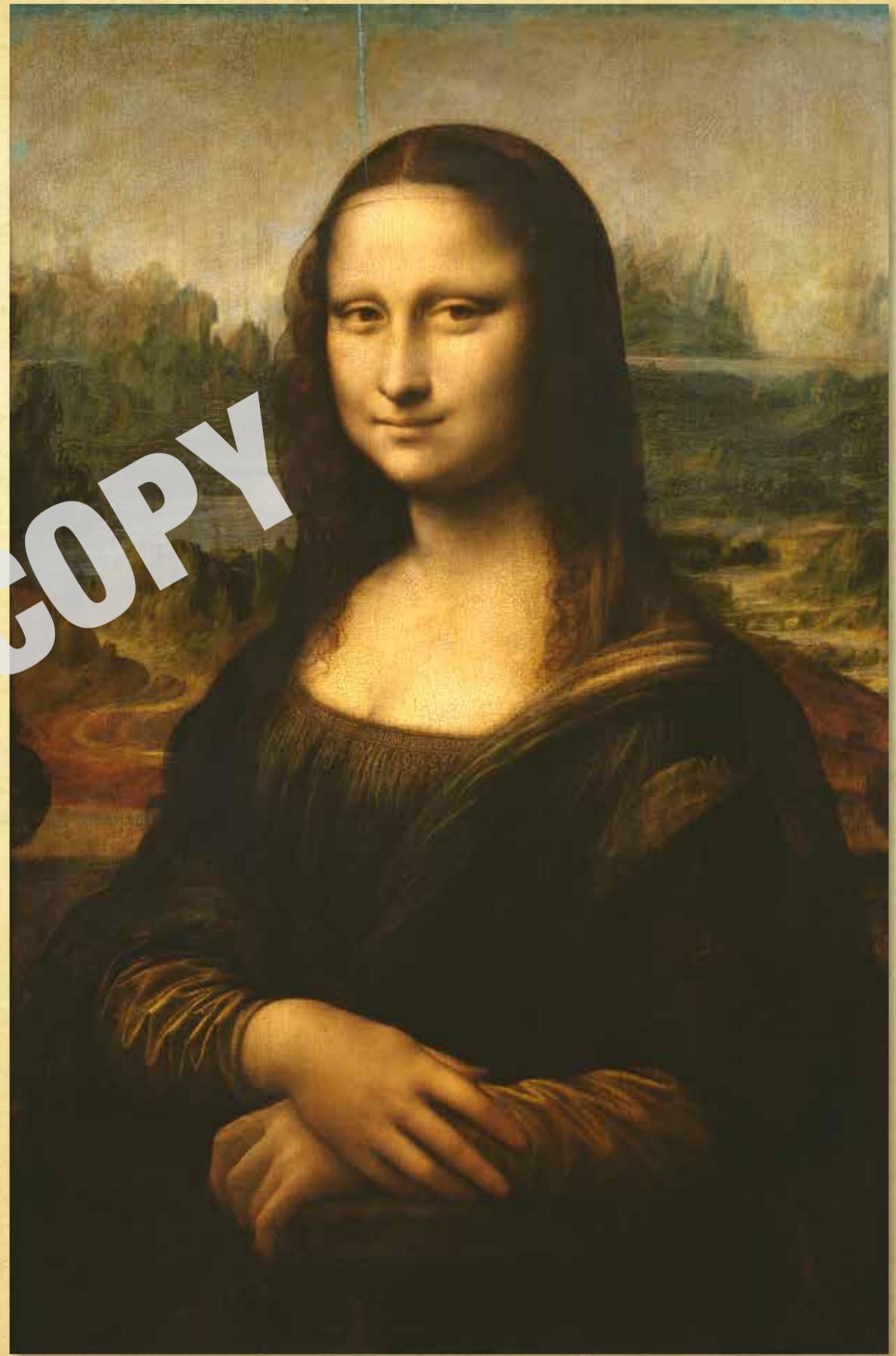
『モナ・リザ』を撮影する観客。『モナ・リザ』はルーヴル美術館の中でも特に人気が高い。



ダ・ヴィンチ『モナ・リザ』を所蔵するフランス・パリのルーヴル美術館。



モナ・リザ
(右ページ) レオナルド・ダ・ヴィンチ 1503年ごろ 板に油彩 パリ、ルーヴル美術館蔵。提供/アフロ



この人はだれ？



『白貂を抱く貴婦人』(→ 33 ページ) などが人気をえて、ダ・ヴィンチには当時多くの肖像画の依頼がよせられていました。公爵夫人イザベル・デステもそのひとりで、かつてダ・ヴィンチが描いた素描(下左)と目鼻立ちが似ていることから、彼女が『モナ・リザ』のモデルではないかとする説があります。また、コンピュータによる解析から、モデルはダ・ヴィンチ自身ではないかとする説がとなえられ、話題になりました。他にも『モナ・リザ』のモデルにはいろいろな説があります。

しかし、2005年にドイツの図書館で発見されたルネサンス時代のメモ書きで、このモデル論争は一応決着したといわれます。そのメモには1503年10月の日づけで、ダ・ヴィンチがリザ夫人の肖像画を描いていることが明記されていたのです。



『イザベル・デステの肖像』レオナルド・ダ・ヴィンチ 1500年 ルーヴル美術館蔵。目鼻立ちが『モナ・リザ』と似ているといわれる。提供/アフロ



『自画像』レオナルド・ダ・ヴィンチ 1515年ごろ トリノ、王立図書館蔵。コンピュータによると、目や鼻などの位置が『モナ・リザ』と一致するといわれる。提供/アフロ

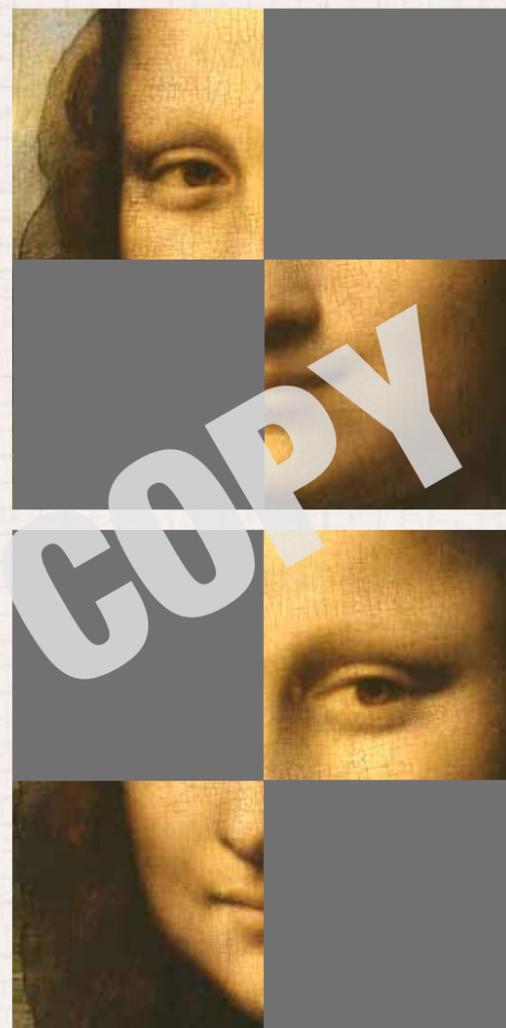
本当に「リザ夫人」なの？

この絵のタイトル『モナ・リザ』は、「リザ夫人」という意味の言葉です。裕福な絹の商人フランチェスコ・デル・ジョコンドが、彼の妻エリザベッタを描いてほしいと、当時フィレンツェで名をはせていたダ・ヴィンチに依頼したものとされています。フランスではこの絵を「ラ・ジョコンダ(ジョコンド夫人)」と呼びます。ジョコンド夫人は1479年生まれ。このとき24~25歳だったようです。

しかし、ダ・ヴィンチは国王の招きでフランスに渡るときも、この絵を手元から離すことはありませんでした。そして『洗礼者ヨハネ』と『聖アンナと聖母子』とともに死ぬまで持ち歩き、手を入れ続けたといわれます。ダ・ヴィンチは頼まれて描いたものを最後まで依頼主におさめなかったのです。

そこでこの絵のモデルは果たして本当にジョコンド夫人なのか？という疑問から、いろいろな説が生まれることとなります。

なぜ神秘的に見える？



顔の左右の表情がちがう!?

「モナ・リザのほほえみ」という言葉をよく耳にします。確かに『モナ・リザ』は、わずかにほほえんでいるように見えますが、同時にどこか神秘的、または非現実的だという意見、または「見ていてどうも落ち着かない」という感想を持つ人もいるかもしれません。ひとつには異様に見える背景のせいでもあります。それだけではなさそうです。

いろいろな研究がされている中で、モナ・リザの顔の表情に左右でちがいがあるとする研究者がいます。右の目と左の口では笑っていても、左目と右の口では笑っていないというのです。

左のように顔を4分割してみると、わかりやすくなります。確かに見ようによっては、右目と左の口からは見る者を慈しむようなほほえみを感じるのに対して、左目と右の口に注目すると、笑っているように見えず、見ているこちら側をじっと観察しているような印象を受けます。

この絵が神秘的に見えるもうひとつの理由に、目に光が描き入れられていないこともあげられます。例えば『モナ・リザ』にかかる10数年前にダ・ヴィンチが手がけた『白貂を抱く貴婦人』には、両目にはっきりと光の点が入っています。

光が描かれないことで、『モナ・リザ』の視線がどこに向いているのかわかりにくく、よけいに非現実的な印象を強めているのかもしれません。



『白貂を抱く貴婦人』(→ 33 ページ)。両目に光が入り、いきいきとした表情が読み取れる。提供/アフロ

